

# 継承途絶えた伝統の踊り 秋高音頭もう一度

## プロダンサー 在校生に伝授

さきがけ  
動画

■使い方  
30面



秋高音頭の手本を見せるヨシタカさん（中央）



真剣な表情で踊りの練習に取り組む生徒

秋田市の秋田高校でかつて応援団が踊っていた「秋高音頭」を復活させようと、同校出身のプロダンサーYOSHITAKA（ヨシタカ）〔本名・鈴木祥高〕さん（35）が24日、同校を訪れ、在校生に踊り方を伝授した。踊りは先輩から後輩へと長らく受け継がれていたが、いつしか途絶えて歌だけになつたため、ヨシタカさんが応援団OBから教わって習得したという。

ヨシタカさんは応援団とダンス同好会の在校生計25人を前に、伝統の踊りを披露。続いて生徒に足の運びや指先の向きなどを伝え、踊り方を丁寧に指導した。秋高音頭は秋田の四季をイメージした緩やかな曲調となつており、ヨシ

タカさんは「女子は柔らかく、男の人は堂々とめりはりをつけ踊って」と呼び掛けた。秋高音頭を復活させる試みは、今年7月にヨシタカさんが応援団OB会副会長の池田和男さん（68）と秋田市内のス

千秋公園（秋田市）の本丸跡には1本の小川がある、名無しの小さな滝だ。流れの源は、本丸跡の北端に建つ御隅櫓近くに

頭は野球部やラグビー部が全国大会に出場した際に試合会場で披露したほか、運動会や学園祭などでも見せたという。だが、数十年前から踊りが継承されなくなり、歌だけになってしまった。池田さんは「応援団の団員数が減り、伝つたいない」と感じて在校生への指導を決意した。

池田さんによると、秋高音頭は「形にこだわり過ぎず、楽しいという気持ちを大事にして踊つてほしい。その気持ちさえあればずっと伝統は続いていくはずだ」と語った。応援団長の宇佐美琉戻さん（2年）は「新入生にも秋高音頭を伝え、伝統を途切れさせずに継承していく」と応えた。

（鎌田秀平）

せせらぎ

落ち葉覆い華やかに

ヨシタカさんは応援団とダンス同好会の在校生計25人を前に、伝統の踊りを披露。続いて生徒に足の運びや指先の向きなどを伝え、踊り方を丁寧に指導した。秋高音頭は秋田の四季をイメージした緩やかな曲調となつており、ヨシタカさんは「女子は柔らかく、男の人は堂々とめりはりをつけ踊つて」と呼び掛けた。秋高音頭を復活させる試みは、今年7月にヨシタカさんが応援団OB会副会長の池田和男さん（68）と秋田市内のス

千秋公園（秋田市）の本丸跡には1本の小川がある、名無しの小さな滝だ。流れの源は、本丸跡の北端に建つ御隅櫓近くに

秋  
秋公園  
点景

▷ 2 ◇